



ほりかね道

狭山市立堀兼中学校便り
令和7年度1月号
発行者 和田 雅士

2026 「品」、人の質を上げる！

令和8年もよろしくお願いします。

堀兼中生の人間性を高める1月の行動目標

「急いでもいい廊下を走らないで移動できる」(落ち着いた行動)

「一年の計は元旦にあり」、一年の計画や目標は、年の初めである元旦に立てるべきだ、物事は最初が肝心で、しっかりと計画を立ててから着実に行うことが大切だ、一年間の目標や行動指針を明確にすることが成功の鍵、と言う意味が知られています。お子さまは、明るい「一年の計」を立てたでしょうか。

年末年始のニュース特番を視聴していると、「国力」という言葉について改めて考えさせられました。広辞苑第七版でこの語彙をひくと【国家の勢力、特に国の経済力】と記されていました。現代社会では、一般的(AI 調べ)には「経済力、科学技術力、文化力、資源、政治力、防衛力(軍事力)」などがその意味するところですが、広辞苑には【資源、防衛力(軍事力)など】は記されていないことを知りました。

「国家百年の計は教育にあり」という言葉があります。中国の古典『管子』に由来し、日本では松下幸之助氏がこの古典から引用し、唱えた言葉だと伝わっています。国の将来(百年の計)を考える上で、最も重要で根本的なのは教育であるという意味で、長期的な視点に立った国家戦略としての教育の重要性を説く言葉です。目先の成果にとらわれず、未来の社会を担う人材育成に力を注ぐべきだという考え方を示しています。(AI 調べ)

この言葉から、【国力】を構成する重要な要素の一つとして「教育」は必要不可欠なものだと考え、教職に携わる人間として、改めて職責の重さを自覚します。同時に、多様化する社会の中、未来を担う人材育成という視点では、家庭や地域の皆さんと手を取り合って教育や子育てを進めていくことが、長い目で見て【国力】を増強することにつながるのだと思いました。

「品性、品格を磨く、内面からただよう品」

今年、生徒に頑張っ欲しいことを示す漢字1字を始

業式に伝えました。【品】です。

品性、品格、品位などの熟語が連想されます。品とは「人に備わる好ましい様子。風格、人がら」、転じて品位には「自然に人に備わっている人格的価値」という意味があります。品とは人の内面の質や価値であり、それが内面から外にあふれでて、立ち居振る舞いや言葉などの形に表出するものなのでしょう。もちろん成長途上の中学生には形から導くことも時には必要です。

【品】は人が一生をかけて磨くものです(私などは未熟者です)。

今年は堀兼中の生徒に意識して【品】を磨いて欲しいと伝えました。実践する知性と豊かな感性、そして洗練された品を持ち合わせた大人に近づけるように努力して欲しいと願っています。